

# 史的文化的磁場の再生

芸・緑・道が織りなす回遊劇場

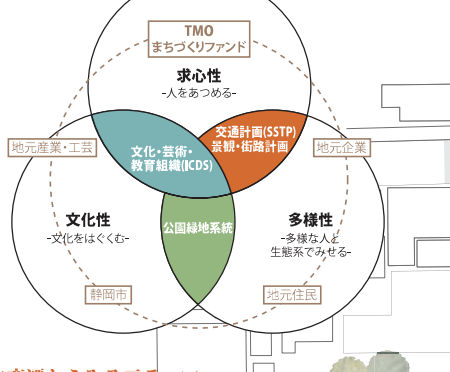
## 提案主旨

かつて自然資源に沿うかたちで適切に計画された静岡の都市構造は、以後、駿府城の城下町として栄え、今日に至るまで様々な歴史を育んできた。しかし戦災によって歴史の建造物の多くを失い、また再開発などが進むにつれて、古からの都市構造は変化を遂げてきている。

そうした変化は今日の社会的要請、そして対象地区である七間町周辺に対し、様々な問題を投げかけている。文化的資本の保存に対する社会的要請の高まりに対しては、街路等の表層的な都市構造は残しつつも、人々の社会活動のなかに「文化性」を見ることは難しくなっている。またこれまでの都市開発手法による持続的計画の欠如は、自然資源との無関係性による「多様性」の喪失といった形で顕在化している。さらに静岡駅周辺の複合再開発によって、七間町周辺とは無関係な一極集中の「求心性」が生まれることが予想される。

このように今日の静岡市、とりわけ七間町周辺は、「文化性」「多様性」「求心性」という三つのテーマで表される課題を抱えている。こうした現状を踏まえて、本提案ではこれら三つの課題の関係性から導かれた四つの計画を行っている。すなわち明治期に花ひらいた寄席からはじまり映画館や大道芸といった形で現在まで受け継がれてきた文化・芸術的要素を軸とした、交通ネットワーク、公園緑地系統、街路・沿道景観の複合的整備である。これによって、七間町周辺が静岡駅周辺、さらには市街地を包む大きな自然資源と呼応するような独自の文化的磁場を獲得することを目標とした。なお、本計画は上位組織による一斉整備ではなく、地元住民の理解と参加を得ながら漸進的に進めるといったことも重要な前提である。

## コンセプト・ダイアグラム



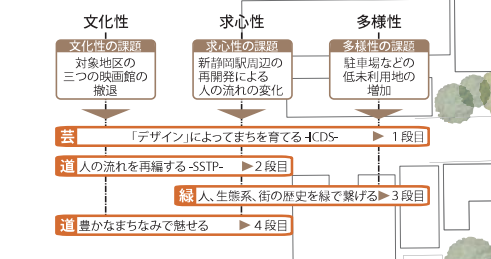
## 歴史変遷からみる三テーマ

**江戸時代 - 家康が築いた「求心性」-**  
駿府城下(静岡市)の地利は、富士山をランドマークとして着目の目印に引かれた。藩行した東海道が対象地区を通っていた。また、市街には安宿川と巴川より取水した水路網が走っていた。この時期に、静岡市は駿府城の城下町として「求心性」を獲得した。

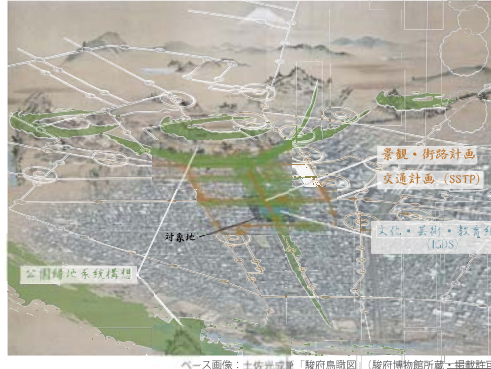
**明治36年 - 大衆芸術文化を育む「文化性」-**  
明治元年に築城となった駿府城跡に歩兵第三十四聯隊の兵舎が整備され(明治30年)、軍部計画が起った。対象地区周辺にはこの時代から寄席や劇場等の娯楽施設が整備された。以後、映画館や大道芸など、静岡市は大衆的な芸術文化を育む「文化性」をもつまちとなる。

**現在 - 人以外の生態系も含めた「多様性」-**  
静岡市は、大衆芸術を中心に、多様な人々が集うまちとなった。軍用地であった駿府城跡は戦災復興計画により都市公園(駿府公園)として整備された(昭和26年)。加えて、跡地断崖として整備された青葉通りが市役所と駿府公園を結ぶ緑の軸となる。したがって、静岡市は、多様な人が集まるばかりではなく、植物や生物など、人以外の生態系も含めた「多様性」を持つまちとなりつつある。

## 三テーマの課題から導かれる四計画



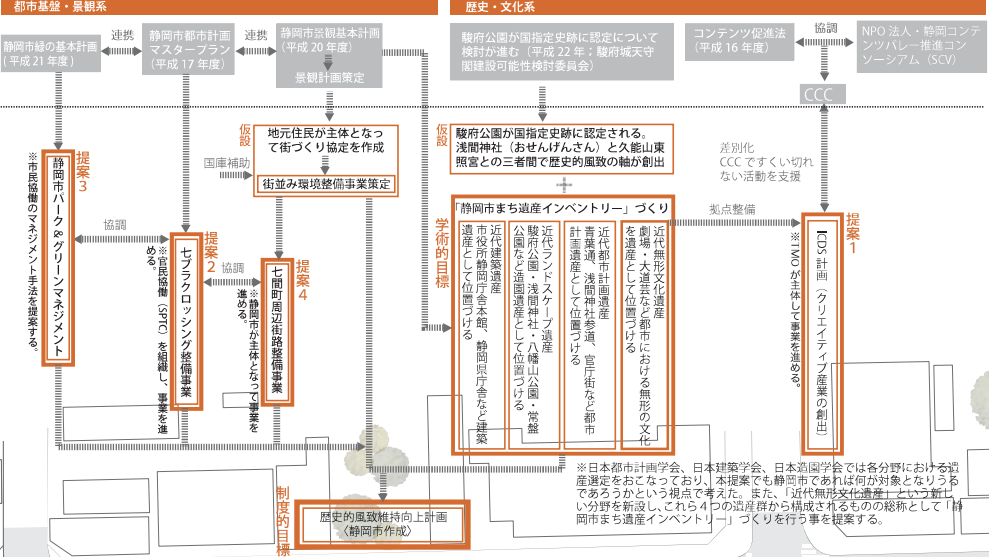
## 静岡市全域から見る対象地区と提案の位置づけ



## 歴史から得る文化とまちなみ



## 都市計画に関する法律の整理と本提案の位置づけ



## 対象地区内・提案全体図

**<背割線に沿って敷設された街路>**  
・七間の小径と同様に街路を歩行者専用道として再整備することで、背割線が分断された街区を順次つなげていく。

**<静岡ブッシュ(プロジェクト)>**  
・雑木林を街区にちりばめ、自然を景観から感じられる場を創出する。  
・多様な緑の圏場としての機能も持つ。

**<背割線に沿って敷設された街路>**  
・七間の小径と同様に街路を歩行者専用道として再整備することで、背割線が分断された街区を順次つなげていく。

**<交差点>**  
課題  
・七間町通りの南北が景観的に断絶されている現状に対し、北側の銀杏様の舗装を交差点にも拡張する。そのことで北側から南側への断絶を軽減し、人の流れを促進する。  
・植生に気を遣い、通り沿いに緑地を複数計画することで、サウンドスケープによる連続感を演出する。(旧静岡市の市鳥に指定されていたヒメアマツバメの鳴き声など)。

**<中央分離帯と東西方向の街路樹>**  
・国道に中央分離帯を設置し、歩行者の安全性を確保するとともに七間町通りの断絶感を緩和する。  
・中央分離帯と街路樹によって、七間町通りと青葉通りの関係性を強める。

**<人宿コモン>**  
・ICDSとの協働を図り、アクティビティの豊かな公園にする。  
・ICDSによる公園づくりワークショップやコンテナ教室等が行われる。

**<セブチ・クロッシング>**  
・別雷神社と隣接するおでん街と同じ高さの屋上広場を設ける。  
・下部には半地下の商業テナントスペースを設ける。  
・おでん街から商業テナントまでのシークエンス、および別雷神社から広場までのシークエンス(動線、緑)の二重性によって、青葉通りと七間町通りを強く結びつける。

**<七間の小径>**  
・背割線に沿って街路が敷設されたために分断された街区間を、歩行者専用道の整備によってつなぐ。

**<ICDS ミラノ(スタジオ)>**  
・七間の小径沿いにスタジオを連続配置し、歩行者やピカデリースクエアで憩う人々が作業風景を見られるようにする。  
・スタジオは24時間開放のため、夜間作業中の灯りが防犯にも役立つ。

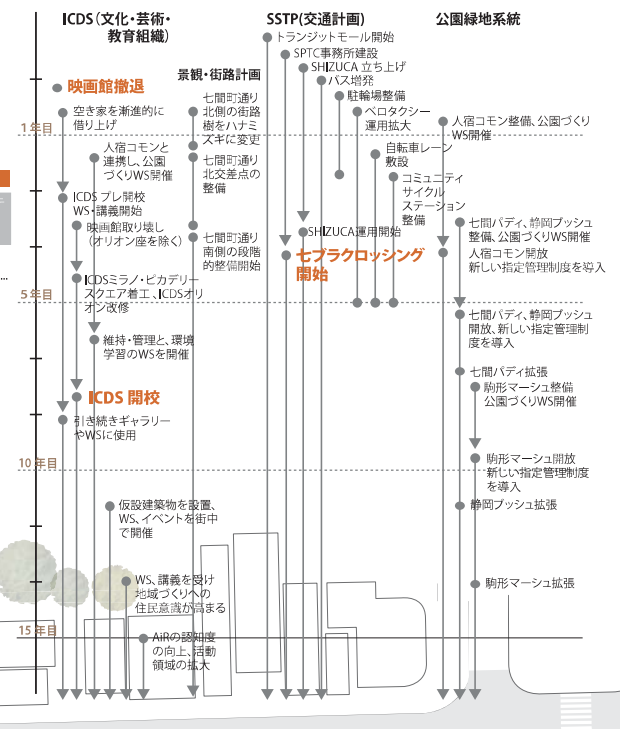
**<ICDS ミラノ・施設用途>**  
・1FにはICDS用スタジオと事務機能が入る。  
・2~4FにはICDS用教室と一般開放の図書館が入り、住民/アーティスト関係なく人が出入りする。

**<七間町通り南側>**  
・銀杏様の舗装を北側から延長し、北側との景観的な連続性を意識しつつも、ICDSにかがう学生が「表現の場」として活動できる空間にする。  
・七間町通りの街路樹にハミスキ(市木)を用いる/街路樹の下に花壇、椅子、アーティストや学生用の展示スペースが一体となったストリート・ファニチャーを設置する。そのことで学生やまちの人たちがよたよたられる街路としてデザインする。  
・七間町通り北側と同様に、一方通行車線とし、その分歩道/自転車専用レーンを設置する。その事で歩行者と自転車・自動車の共存を図る。

**<七間バディ>**  
・まちなか農園を開設し、市民に食の大切さを理解してもらおう。また、生物の生息の場としての機能も持つ。  
・ICDSによる農業体験ワークショップ等が行われる。

**<駒形マーシュ>**  
・遊地を創出し、子供たちに生物観察の場を提供する。  
・多様な生物の圏場としての機能も持つ。

## 実施タイムライン



scale=1/500

